

京田辺気候変動市民会議提言とりまとめ
カーボンニュートラル実現に向けて
みんなで取り組む 24のこと

令和4年10月

京田辺気候変動市民会議

目次

1. はじめに.....	1
2. 検討したテーマ.....	2
①再生可能エネルギー.....	3
②移動.....	7
③建築物.....	10
④地域経済循環(消費・食含む).....	13
3. 京田辺気候変動市民会議 名簿.....	18

1. はじめに ～京田辺気候変動市民会議について～

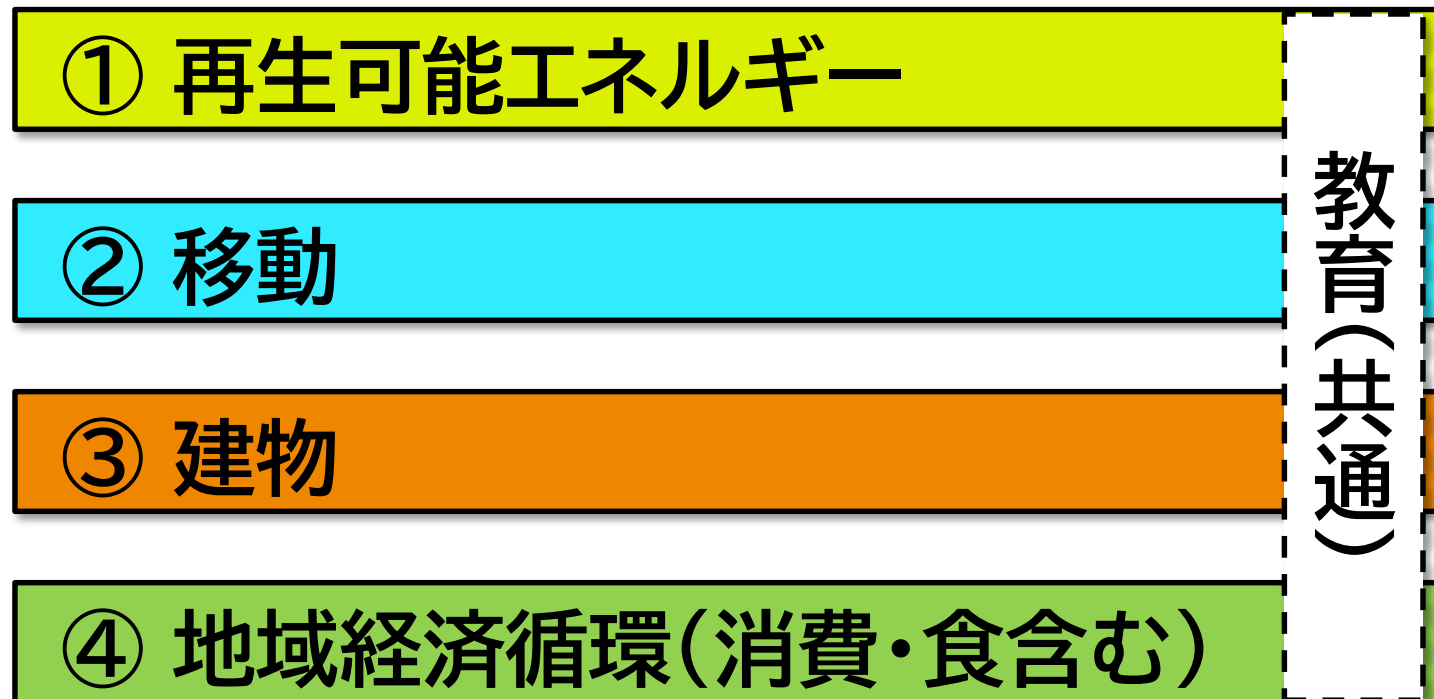
- 今、世界では、全ての分野において、脱炭素化が必要で、制度や技術だけではなく、暮らし方、人々の意識や選択も抜本的に変えていく必要があると言われてしています。
- そこで、京田辺市では、国内外でどのようなことが起こっているのかを知り、地域に次世代が、住み続けることができるよう、**市民はどのように暮らしを変えていくのか、どんなことを選択しているのか**、を考える場を開催しました。
- 京田辺市に住む市民が集まり、学び、考え、地域でどのようなことに取り組みでいくのか、計4回の会議を通じて、**市民目線で、2030年までにみんなで取り組むこと**をとりまとめました。

令和4年10月19日

京田辺気候変動市民会議 一同

2. 検討したテーマ

- 以下の4つのテーマで議論を行いました。教育については、全ての分野につながることから、横断的に議論し、とりまとめています。



① 再生可能エネルギー

再エネ

カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 8つのこと

2030年に実現していきたい未来

2030年には、今より再エネ導入量が倍増する

未来に向けた3年後

各主体が主役の再エネ導入モデルをつくる

(各主体:公共の活動、市民・事業者の活動、市民が参加できる活動 など)

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(1)住宅への太陽光発電の設置を倍増しよう。

- ・ 設置の判断ができるように、メリット・デメリットなどの正しい知識を伝えよう。知ろう。
- ・ 設備導入のハードルを下げる仕組み(共同購入や共同施工など)を実装しよう。
- ・ 導入の後押しとして、補助金制度や信頼できる設置事業者の情報を伝えよう。

(2)どういう組み合わせが、京田辺市にあって、みんなで考える場をつくろう。

- ★ 毎月、自由に話せる場(オンライン&時に現場見学)をつくって、事業者(不動産・農家など)・有識者も巻き込んでいこう。
- ★ 若者も巻き込もう。

(3)誰もが再生可能エネルギーの導入に関われるよう、お金の流れをつくろう。

- ・ ふらっと立ち寄れるような、定期的な勉強会を開催しよう。
- ・ 自分がどんなスタイルで関われるか考えよう。
- ・ 市や地域の信用金庫などと連携して、顔の見える関係で取り組もう。
- ・ 市民ファンドを創設しよう。

(4)市民の誰もが目につくモデルをつくろう。

- ★ 駅前や学校などでモデルをつくろう。

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(5)市民が取り組むモデルをつくって、ひろげよう。

- ★ 積極的に市内モデルの情報発信をしていこう。
- ★ 市主体、もしくは、有識者と市民からなる情報発信の団体などを設立しよう。
- ★ 市民が取り組んでいる実践例を集めよう。

(6)市内に公共施設の太陽光発電のモデル事例をつくろう。

- ★ 公共施設モデル施設を作り、購入検討の方を対象に太陽光発電の説明会を開催しよう。

(7)市内の様々なスタイルの太陽光発電導入を促進しよう。

- ・ EVの充電スタンド、地域共用のローカル蓄電池とセットで設置しよう。
- ・ 日射遮蔽がある作物(玉露栽培など)の屋根面に、太陽光発電の設置を検討してみよう。
- ・ 耕作放棄地への営農型モデル導入を検討してみよう。
- ・ 太陽光発電を設置するための共通の基準を考えよう。
- ・ 空き家解消・空地を活用した再エネ導入モデル(空地貸付モデル(仮))を考えよう。

(8)農地を活用した、再生可能エネルギー導入を考えよう。

- ・ 耕作放棄地の活用として、エネルギー作物の生産を検討してみよう。
- ・ 水田の水の流れ(分配する仕組み)を電気にも応用できるか考えてみよう。

② 移動

移動

カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 4つのこと

2030年に実現していきたい未来

近距離の移動を公共交通機関・EV車の利用に8割以上切り替える

未来に向けた3年後

日々の買い物などの近距離移動を化石燃料車から自転車や公共交通機関へ転換(4回に1回は転換)する

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(9)公共交通機関の利用率を50%拡大しよう。

- ・ 降乗車しやすい工夫を考えよう。駅が9つもある環境を活用しよう。
- ・ 電車とバスを乗り継いで移動する場合のお得な仕組みを考え取り組もう。
(例:「30分以内に乗り継いだら無料で乗り継げるチケット」など)
- ・ 車を手放して、公共交通機関への転換するためのインセンティブになるアイデアを考え、取り組もう。
(例えば、車を手放した方へ公共交通機関は3年間無料とするなど)

(10)実現したい2030年の未来のための行動をみんなに届けよう。

- ★ 市内の大学との連携して、普及啓発を実施しよう。
- ★ インスタグラム等で幅広い層に情報発信をしよう。
(例:移動に関する未来の行動、EVステーションのマップ化等の情報など)
- ・ CO₂削減行動にエコポイントを付与して、行動の転換を促進しよう。その行動にどのくらいCO₂削減効果があるかも伝えよう。

(11)自転車を中心の暮らしにシフトしよう。

- ・ 駅の近くに、もっと駐輪場と貸し自転車を整備しよう。
- ・ 電車やバスに自転車を、そのまま乗せることが出来る方策を考え、取り組もう。
- ・ 安全で走行できる様に自転車道の整備しよう。

(12)化石燃料車の使用率が少ないまちにしよう。

- ・ EVのカーシェアリングがあるまちにしよう。また、その仕組みを活用しよう。
- ・ 貨物用自動車の転換としてドローンなど配達の普及を進めよう。
- ・ 使用日(この日しか化石燃料車は走れないなど)を限定する取り組みを考えよう。

③ 建物

建物

カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 4つのこと

2030年に実現していきたい未来

国が目指す水準*の効果のある取組(選択肢)を京田辺市でも普及しよう *ZEHレベル(省エネ基準から-20%削減)

未来に向けた3年後

グリーンライフな取組・メリットを全市民に届けよう

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(13)2030年の未来の(グリーンな)暮らしの普及をしよう。

- ★ 地域の工務店などと協力して、ZEH住宅の宿泊体験等を実施しよう。
 - ・ 最新のZEH住宅を購入する以外で、同等の効果のある選択肢(そもそも電気などのエネルギーを使用しない暮らし)も提示しよう。
 - ・ 打ち水、風鈴など伝統的な暑さ対策の知恵を活用しよう。
 - ・ 景観にも良いグリーンカーテン等の取り組みを広げていこう。
 - ・ 住環境の快適さと脱炭素に繋がる建築の取り組みに関する情報を市民一体で広げていこう。
- ★ 若い人たちへ削減取組のメリットをSNS等でみんなに伝えよう。
- ★ 勉強会などの場で、京田辺市内での取り組みを市民から集めて、仲間の意見を共有しよう。また、SNSなどのプラットフォームで、市民と市とで、情報を発信する仕組みを考えよう。

(14)既存住宅の断熱化を進めよう。

- ・ 投資回収の早い、窓の断熱改修を進めよう。
- ・ 中古物件のリフォームを促進しよう。
- ・ 今後増えてくる空き家の利活用方法を、市民と市と一緒に考えよう。

(15)住宅の省エネ化を進めよう。

- ・ 自然エネルギーを活用した(太陽光照明、通気性を挙げて風を空調)設備の活用しよう。
- ・ 家庭用燃料電池、高効率給湯機を普及しよう。
- ・ 自立循環型住宅を標準化しよう。

(16)その他の建物についても取り組みを進めよう。

- ・ オフィスビルに太陽光を活かした配電設備、自然の風を利用した換気システムを導入しよう。

④ 地域経済循環(消費・食含む)

2030年に実現していきたい未来

本当に循環している場所と仕組みをつくろう

未来に向けた3年後

京田辺市産が買えて、農家と交流出来る場所をつくろう
産官学で、食の循環の仕組みをつくろう

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(17)地域で、地域産野菜が循環する仕組みをつくろう。

- ・ 学校給食に京田辺市産の食材を50%使用するなど、地域で高い目標を設定しよう。
- ・ 給食には、必ず京田辺産の野菜を取り入れよう。
- ・ 市民に定着しやすいネーミング(例:道の駅など)の、地元産品の販売所をつくろう。
- ・ 畑のそばで、朝市をしよう。

(18)環境によい買い物しか出来ない場所・仕組みをつくろう。★

<場所のイメージ>

- ・ 京田辺市産・担い手に出会える場所をつくろう。
- ・ 市産(曲がったものでも)野菜が買える場所や流通ルートを増やそう。
- ・ 加工品も含めて、ここに行けば、京田辺市産に出会えるという場所をつくろう。
- ・ そこでは、プラ包装容器もなく、マイバック持参があたり前で買い物をしよう。
- ・ 環境によい買い物しか出来ない場所にしよう(地元のもの、調味料なども量り売りで買える、隣が畑で、収穫して買える、コンポストもあり、循環している)。
- ・ 必要なものと必要なものが交換できる、効果が見える化されている、飲食も出来て、ビーガン食が食べることができる場所をつくろう。

- ★ 健康づくりも考えたゼロカーボン移動で行こう。
- ★ EV(ゼロカーボン)配達仕組みをつくろう。
- ★ いつもの移動ルートの中に、サテライトショップを増やそう。

(19)市民へ考えや取り組みを伝えていこう(消費者への教育)。

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(20)地域経済循環と食育・教育をつなげる取り組みをつくろう。

★ モデル校をつくろう。

- ・そして、2030年には全ての学校で取り組もう。

<イメージ:総合学習で、農業→調理→堆肥の循環を学ぶ>

- ・収穫できたら給食で使用したり文化祭などで販売する。
- ・地元の有機農家を指導者、管理人として雇う(雇用にもなる)。
- ・農業を通して食生活と環境のつながりを学ぶ(給食に月に一度「ベジタリアンの日」を作る)。
- ・大学が最初から最後までデータを集め、環境教育としての成果や課題などをまとめる。
- ・京田辺の名産品を学校で育てて、売る体験をする。地元のナス農家やお茶農家から直接学ぶ。

(21)環境負荷の少ない循環型農業(肥料、生物多様性)に取り組もう。

- ・耕作放棄地を市営農園にして、学校給食食材を生産できないか考えよう。
- ・(公務員は人気職なので、)農業者を公務員にしよう。複業制度をつくろう。
- ・プラスチック紐禁止ルールをつくろう。
- ・伐採、剪定枝などを活用した共同バイオ堆肥づくりをしよう。甘南備園での取り組みを広げよう。

そのために取り組むこと(取組のアイデア)

★は今から3年間で取り組みたい項目です。

(22)農家を支える取り組みをみんなで考えて、取り組もう。

- ・ 農家とITベンチャーとのコラボを考えよう。
- ・ 農家を継ぐ仕組みを考えよう(農家を個人ではなく、会社としての取り組みができないか考えよう)。
- ・ ふるさと納税で有機野菜農家を育成しよう。
- ・ つくるだけでなく、販売ができる起業チームをつくろう(トレーサビリティサポート、管理)。

(23)資源循環の取り組みを促進しよう。

- ・ 飲食店等の残飯をたい肥に利用する仕組みを考えよう。
- ・ アプリを通して、売れ残り食品を販売する取り組みを考えよう。

(24)地域資源を活用して、脱プラ・循環の仕組みをつくろう。

- ・ 放置竹林の竹などの地域資源を活用した製品をつくり、市民は活用しよう。
(竹歯ブラシを制作して、転入者へ配布するなどの取り組みなど)

3.京田辺気候変動市民会議 名簿

○参加者

有地 淑羽	髭愛
伊藤 靖	平井 鈴音菜
浦田 ヒロ子	前田 昌紀
窪田 百音	森川 雄太
榊田 未央	安井 健
新免 修(さんさん山城)	山口 栄一
千崎 朋子	山崎 正志
名畑 智子	山本 和仁
能勢 雅紀	山本 英樹
バースルース幸	吉村 尊成